

●ウイスキー・ラベル物語-24 (最終回)

スコッチから日本の味を造るジャパニーズ・ウイスキー(7)
—世界のレベルを極めたジャパニーズ—

か わい ただし
河 合 忠
Tadashi KAWAI



ウイスキー消費減少による業界の再編続く

洋酒輸入自由化に加えて、ニッカウヰスキー株式会社、サントリー株式会社はともに第二蒸留所を開設して増産体制を強化し、さらに多くの酒類製造企業の新規参入によって、昭和58(1983)年までは日本のウイスキー消費量は順調に伸びていた。戦後、昭和22～25年に生まれた団塊の世代が成人に達し、多彩な嗜好に合わせてウイスキーの消費増加を支え、昭和55(1980)年には実に80%の団塊世代の人たちがサントリーオールドを飲んでいたという。しかし、突然の焼酎ブームの到来によって昭和59(1984)年以降ウイスキー消費量は減少を続けており、昭和40年代までにウイスキー製造・輸入・販売に新規参入した多くの企業は次々とウイスキー業界から撤退または業務縮小に踏み切った。

東洋醸造株式会社は、平成4(1992)年、旭化成株式会社に合併したが、その旭化成も平成14(2002)年には洋酒部門をアサヒビール、ニッカウヰスキーに、また平成15(2003)年には清酒部門を合同酒精株式会社に譲渡し、酒類事業から完全に撤退した。大正13(1924)年に設立された合同酒精株式会社も積極的にウイスキー事業を目指したが、現在は2003年に設立されたオエノンホールディング株式会社の完全子会社としてマッキンレー社と提携して、アイル・オブ・ジュラやマッキンレーのブランドを輸入販売している。

その後、酒税法の改正で焼酎との課税格差が減ったものの、居酒屋や和食レストランなどで気軽に飲める「お湯割り焼酎」の勢いに押されて、ウイ

スキーの苦戦は続いている。そこで登場したのが、豊かな生活を享受し始めた団塊の世代がもつ高級ブランド志向をくすぐる高級ブレンド、また個別化志向の強い世代や古いスコッチを懐かしむ世代に対するシングルモルト、ピュアモルト商品である。メルシャンが昭和51(1976)年、国産初のピュアモルトとして「オーシャン軽井沢」を発売したのについて、ニッカは昭和57(1982)年、サントリーは昭和59年、それぞれ「ニッカ・ピュアモルト北海道」、「サントリー・ピュアモルト山崎」を発売し、モルトの静かなブームを支えることになる。今日まで、ジャパニーズはスコッチモルトから脱皮し、日本人の香味嗜好に合わせて戦後の激しい競争を勝ち抜き、製造技術の改善に努力した結果、世界に伍する最高級ウイスキーの製造能力を蓄えていたのである。



世界のコンテストで受賞相次ぐジャパニーズ

スコッチから分派したジャパニーズは、今や、繊細な香味を蓄えた独自のウイスキーとして世界5大ウイスキーの1つに数えられ、近年では国際的なコンテストでの受賞が相次いでいる(表1)。こうしたコンテストを毎年または定期的に開催することによって、世界中のウイスキー銘酒を世に広め、ウイスキーの消費増加に繋げる狙いであるが、さらにモルトウイスキー愛好家の国際的な交流を深める場としても重要な意義をもっている。

ウイスキー専門誌「Whisky Magazine」

平成10(1998)年に英国から創刊されたウイスキー専門誌「Whisky Magazine」が、世界中にウイ

スキーの情報を提供している。その雑誌社が多くの専門家のパネラーによる審査を経て、各号に優れた商品を推奨品として公開しているが、この中でも近

年日本からのいくつかのブランドが含まれている(表2)。

表1 主要な国際的コンテストで受賞したジャパニーズウイスキー

コンテスト名	受賞年次	商品名
IWSC*1	2001年金賞	メルシャン軽井沢ピュアモルト 12年
	2001年銀賞	メルシャン軽井沢シングルモルト 15年
	2001年銀賞	メルシャン軽井沢シングルカスク 21年, 17年
	2002年金賞	メルシャン軽井沢マスターズブレンド 10年
2002年銀賞	メルシャン軽井沢ピュアモルト 12年, 17年	
	2005年金賞 (部門最高)	サントリー響 21年; サントリーシングルモルトヴィンテージモルト 1982, 1991
2005年銀賞 (部門最高)	サントリーピュアモルト北杜 12年; サントリーシングルモルト山崎 Sherrywood 1986; サントリー響 30年; サントリーシングルモルトヴィンテージモルト 1994, 1990, 1988, 1983	
	2005年銀賞	サントリーシングルモルト山崎 12年; サントリー響 17年, 50年; サントリーシングルモルトヴィンテージ 1992, 1993, 1989, 1985, 1981, 1980, 1979
2005年銅賞	サントリーシングルモルト山崎 25年, 10年; サントリーシングルモルトヴィンテージモルト 1984	
WM/BOB*2	第1回 (2001年)	ニッカシングルカスク余市 10年
	総合第1位	サントリー響 21年
	総合第2位	
	第2回 (2003年)	サントリー響 21年
	総合第9位	ニッカシングルカスク余市 12年
総合第14位		
	第3回 (2004年、ジャパニーズ部門*3)	サントリー山崎 1993年 10年
トロフィー	サントリー響 505 17年	
金賞	エバモア 2004ブレンド 21年	
銀賞	ニッカ宮城峡 10年	
銅賞		
ISC*4	2003年金賞	サントリーシングルモルト山崎 12年
	2003年銀賞	サントリーシングルモルト白州 12年
	2004年トロフィー*5	サントリー響 30年
	2004年金賞	サントリー響 21年
	2005年金賞	サントリー響 21年; サントリーシングルモルト山崎 Sherry Wood 1986; サントリーシングルモルト・ヴィンテージモルト 1983
SWSC*6	2005年最優秀金賞	サントリーシングルモルト山崎 18年
	2005年金賞	サントリー響 17年
	2006年銀賞	サントリー響 17年

*1 IWSC: The International Wine and Spirits Competition (1969年に創設、ロンドン) 2005年からはウイスキーの種類別に審査

*2 WM/BOB: 英国の Whisky Magazine 社主催の国際ウイスキーコンテストで、Best of the Best

*3 WM/BOB: 2004年から5大ウイスキーごとに審査

*4 ISC: International Spirits Challenge (1996年に創設、英国、“Quest Magazines and Events”の出版社がスポンサー)

*5 Trophy、全部門を通じての最高賞

*6 SWSC: The San Francisco World Spirits Competition (2000年に創設、サンフランシスコ)

表2 Whisky Magazine (英国) が審査の結果、Editor's Choice (金) と Recommended (銀) として公開しているジャパニーズウイスキー (2006年3月現在)

雑誌号数	発行年.月	推奨レベル	商品名
13号	2000.12	金	ニッカシングルカスク余市 10年
		銀	ニッカシングルモルト余市 15年
		銀	サントリーシングルモルト白州 12年
26号	2002.10	金	SMWS Cask 116.1 シングルモルト*1
		金	SMWS Cask 116.4 シングルモルト*1
29号	2003.03	銀	サントリーホワイトオークカスク山崎 1980
35号	2003.11	金	SMWS 119.2 山崎オークカスク 1979*2
36号	2003.12	銀	SMWS 119.3 山崎 11年 1991
40号	2004.06	金	サントリー響 17年、非冷蔵濾過
		銀	サントリーシングルモルト北杜 12年

*1 SMWS 認定番号 116 は、ニッカ余市蒸留所

*2 SMWS 認定番号 119 は、サントリー山崎蒸留所

ウイスキー・マガジン社は、ウイスキーマガジン・ライブ (Whisky Magazine Live) やウイスキー・テスティング・パーティー (Whisky Tasting Party) やベスト・オブ・ザ・ベスト (Best of the Best, BOB) 選出などのイベントも行っている。ウイスキーマガジン・ライブは、年1回、誌上に紹介された優れたウイスキー商品を実際に体験するために世界の8カ所で開催されていて、日本では東京で2000年から行われている。

ウイスキーマガジン・ベスト・オブ・ザ・ベストコンテストは、2001年に第1回、2003年に第2回、2004年に第3回が行われている。世界中のウイスキーのプロによるブラインドテスティングによって世界のトップクラスのウイスキーを選ぶイベントである。最近の第3回からは、世界のウイスキーを5つの部門 (Best Scotch Blended, Best Scotch Single Malt, Best Japanese Whisky, Best American Whiskey, Best Irish Whiskey) に分け、それぞれの部門で最高の荣誉であるトロフィー (Trophy) に加えて、金賞 (Gold), 銀賞 (Silver), 銅賞 (Bronze) が選ばれ、晩餐会で発表、授賞されるという趣向である。2001年の第1回で、総合順位1位に輝いたのが「ニッカ余市シングルカスク10年」で、その後もジャパニーズは各種の受賞の荣誉を得ている。

IWSCによるウイスキーコンテスト

IWSC、すなわち International Wine and Spirit Competition は、1969年、ワイン化学者である Anton Massel によって Club Oenologique として創設されたもので、その後世界中の支持を得て1978年に現在の IWSC に改名され、本部は英国のサレイ (Surrey) にある。現在では、毎年、世界の50カ国以上から5,000件の申し込みがあるという。本コンテストにエントリーするための前提条件として、まず温度管理された貯蔵庫、化学的や微生物学的分析のための独立した試験所と2つの独立した試飲室をもっていることである。そして世界中から選ばれたプロによるブラインドテスティングによって慎重に選出されるという。ワイン、スピリッツ、リキュールなどの各部門で、それぞれ1つの商品に対して金賞、銀賞、銅賞が授与されるという厳しいものである。こうして選ばれたワインとスピリッツを味わいながらの晩餐会 (Competition Banquet) の他、さまざまなイベ

ントが行われている。最近では、Highbury Harpers 出版社がパートナーに加わり、世界的に広報されるようになっている。

SMWSによるモルトウイスキーの厳選

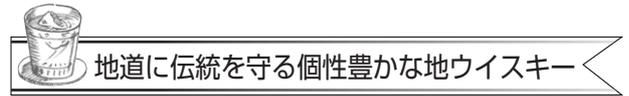
モルトウイスキーを愛する人たちが集まり昭和58年に設立された The Scotch Malt Whisky Society (SMWS) は、スコットランドのエディンバラに本部がある。奇しくも日本のウイスキー消費量がピークに達した年である。そもそものきっかけは、数名のモルト愛好家が集まり、スペインの蒸留所 (コード番号 No.1) から樽を購入して分け合って、シングルカスクの個性ある芳醇な香味を味わったことだという。それが仲間の口コミから発展して SMWS が始まったが、現在では、SMWS の会員は世界14カ国の支部に3万人以上が加盟しているという。

スコッチ蒸留所は100カ所程度が操業を続けており、それぞれに独特の香味をもっていることは前述した。しかし、それらの蒸留所で製造されるウイスキー原酒の大部分はヴァッティングやグレーンなどのブレンドに使用されており、シングルモルトとして瓶詰されるのは10%にも満たないという。1つの蒸留所で造られるモルト原酒はそれぞれの樽で香味、アルコール度数、色などが異なるため、多くの樽の内容を混ぜ合わせ、さらに加水してアルコール度数を40%程度と一定にした後、シングルモルトとして瓶詰される。さらに、加水によって濁りが生じないように冷却濾過 (chilled filtering) をすることが多く、透明度は増すものの、一部の香味成分が除去される欠点もある。そこで、SMWS 会員に頒布する SMWS ウイスキーは、認定された優れた蒸留所で製造されたシングルモルトを厳選された樽ごと購入し、加水や冷却濾過などの操作をせずに瓶詰される。しかも、SMWS ボトルには SMWS ロゴマーク (写真1) を印刷した共通のラベルを貼り、蒸留所名を記載することなく、蒸留年月、瓶詰年月、熟成年数、アルコール度数と蒸留所コードと樽番号のみが記されている (写真2)。

SMWS 日本支部は平成5 (1993) 年に誕生し、株式会社ウイスク・イー (E-mail: smws@whisk-e.co.jp; URL: http://www.whisk-e.co.jp/smws) に事務所がある。2005年度までに認定されたジャパニーズは、

蒸留所コード No.116 のニッカ余市蒸留所（2002年認定）、No.119 のサントリー山崎蒸留所（2003年認定）、No.120 のサントリー白州蒸留所（2003年認定）、No.124 のニッカ宮城峡蒸留所（2005年認定）で製造されたシングルカスクモルトである。最も厳しい審査を経て SMWS により認定されたニッカとサントリーは、本場のスコッチの仲間入りをし、文字通り世界のシングルモルトウイスキーとして認められ

たことになる。



全国的な販売拡大を目指すのではなく、あくまでも地道に個性豊かな地ウイスキーを製造・販売し続けるユニークな企業（表3）もウイスキー愛好家から注目されている。

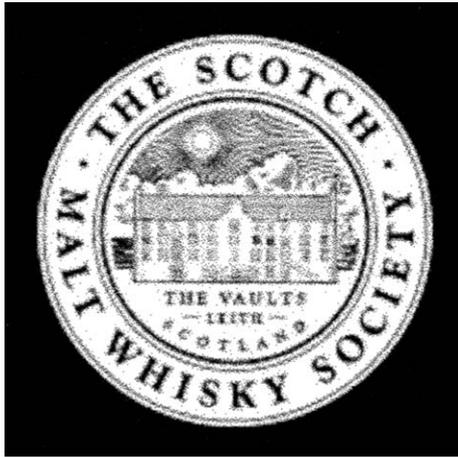


写真1 The Scotch Malt Whisky Society (SMWS) のロゴマーク

中心部に、モルトウイスキー貯蔵庫 (The Vaults) を配している。



写真2 SMWSが発売するシングルモルトカスクウイスキー

SMWSに登録されたスコッチ蒸留所 No. 108 から提供された樽番 1 (108.1) がラベルの右下に書かれているだけで、左下には蒸留年月、瓶詰年月、熟成年数、アルコール度数が記されている。

表3 その他のウイスキー製造会社と平成17年度販売銘柄
(すべての銘柄を含むとは限らないので、漏れのある場合には著者にご一報ください)

会社名	創業年	ウイスキー事業開始年	販売銘柄	蒸留所または工場所在地 E-mail address
宝酒造(株)	天保13(1842)年	大正年間?	キングウイスキー「凜」、プラントン、アンティクアリー、タリスマン、など	千葉県一松戸工場 www.takarashuzo.co.jp/
江井ヶ嶋酒造(株)	江戸時代初期	大正8(1919)年	ホワイトオーク クラウン、ゴールド、レッド	兵庫県明石市 www.ei-sake.jp/
(株)東亜酒造	寛永2(1625)年	昭和21(1946)年	Golden Horse (秩父8年、武蔵、武州、Grand)、Old Halley	埼玉県羽生市 www.toashuzo.com/
笹の川酒造(株)	明治2(1765)年	昭和21年	チェリー EXX 43%, EX 40%, 37%; THIS IS	福島県郡山市笹川 www.sasanokawa.co.jp/
本坊酒造(株)	明治5年	昭和35(1960)年	駒ヶ岳シングルモルト10年、マルスマルテージ8年、マルス3&7 スリー・アンド・セブン、マルス アンバー、マルス エキストラ、マルス オールドヴィンテージ薩摩 1984 (シングル・カスク・モルト)	長野県上伊郡宮田村一信州工場 鹿児島県一鹿児島工場 www.hombo.co.jp/
中国醸造(株)	大正7年		アスコットハウス、戸河内ウイスキー18年、ウイスキー達磨	広島県廿日市市松尾 www.chugoku-jozo.co.jp/
モンデ酒造(株)	昭和27年		ウイスキーローヤルクリスタル	山梨県東八代郡石和町 www.mondewine.co.jp/

宝酒造株式会社

—キングウイスキー「凜」など *W*

創業は天保13(1842)年に溯る老舗で、大正14(1925)年に京都に宝酒造(株)として設立された総合酒類製造会社で、平成14(2002)年からは宝ホールディングス株式会社の100%子会社となった。早くから福島県白河にウイスキー工場を設立し、「キングウイスキー(King Whisky)」のブランド名で高品質のウイスキー生産を始め、地ウイスキーブームの一翼を担った。キングウイスキー「白河」ピュアマルト(写真3)はその代表的な逸品であったし、現在も「凜」がウイスキー通で愛飲されている。さらに、戦後のウイスキー消費量増加に合わせて、米国ケンタッキー州にAge International, Inc. やスコットランドのトマーチン社(The Tomatin Distillery Co. Ltd.)を買収して子会社にするなど積極的にウイスキー販売に取り組んだ。バーボンではブラントン(Blanton)、エンシェント・エイジ(Ancient Age)を輸入販売し、スコッチではアンティークアリー(Antiquary)、トマーチン(Tomatin)、タリスマン(Talisman)を販売している。

江井ヶ嶋酒造株式会社

—ホワイトオークウイスキー *W*

江戸時代、明石の西部地区の浜手は「灘」と呼ば

れ、古くから酒造りが盛んであったが、神戸・灘が有名になると「西灘」と呼ばれるようになった。明治21(1898)年、その地区に江井ヶ嶋酒造(株)が設立された。大正8年には蒸留工場を建設してウイスキー製造を開始し、戦後の需要の伸びに対応して昭和59年には現在の本社近くに新工場が建設され、現在までホワイトオークウイスキー(WHITE OAK WHISKY)を造り続けている。(写真4)原料には英国から輸入した大麦麦芽を使い、清酒用仕込み水である地下水を使ってホワイトオークは造られており、オーク樽で8年以上熟成した原酒を使った「クラウン(Crown)」の他、「ゴールド(Gold)」、「レッド(Red)」の銘柄が発売されている。

本坊酒造株式会社 — マルスウイスキー、 駒ヶ岳シングルモルト、など *W*

明治5(1872)年に創業、製綿と焼酎製造を開始し、明治35(1902)年に本坊商會を設立、昭和3(1928)年には本坊合名会社を設立した。昭和24(1949)年にはウイスキー製造免許を取得し、昭和30(1955)年には鹿児島酒造(株)と合併し、本坊酒造(株)を設立した。昭和35年にはウイスキー製造のための山梨工場を新設した。同年、小林酒造(株)、富士葡萄酒(株)、松永醸造(株)、昭和41(1966)年には太平洋醸造(株)を次々と吸収合併した。昭和60(1985)年には、ウイスキー類製造の



写真3 宝酒造のキングウイスキー白河ピュアマルト12年

白河工場でオーク樽に長期熟成されたピュアマルトである。



写真4 江井ヶ嶋酒造のホワイト・オーク・クラウン ブレンデッド・ウイスキー

ための信州工場を新設した。

マルスウイスキー (Mars whisky) 信州工場は、中央アルプス駒ヶ岳の山麓に位置する宮田村にあり、ウイスキー製造に欠かせない良質の水と豊かな自然に囲まれている。ジャパニーズの父、竹鶴政孝をグラスゴーに派遣した岩井喜一郎の指導の下に設計されたポットスチルによって作られた原酒を元にマルスウイスキーは誕生した、ウイスキー通の間で“幻の逸品”として人気を博している。マルスには、モルテージピュアマルト8年、モルテージ駒ヶ岳シングルモルト10年 (写真5) などのモルトの他、3&7スリー・アンド・セブン、アンバー (AMBER)、エクストラ (EXTRA)、オールド (OLD) などのブレンド商品も発売されている。

「ヴィンテージ薩摩 1984 (VINTAGE SATSUMA 1984)」は、昭和59年に鹿児島工場で蒸留し、その後20年間シェリー樽にて熟成されたモルト原酒から3樽を厳選して混和したウイスキー (TRIPLE CASK MALT WHISKY) である。

株式会社 東亜酒造

— ゴールデンホースウイスキー、など *W*

酒造の創業は秩父の神泉村で寛永2 (1625) 年といわれ、昭和16 (1941) 年に現在の埼玉県羽生市に (株) 東亜酒造を建設し、戦後いち早く昭和21年か

ら地ウイスキー生産を始め、ゴールデンホース (GOLDEN HORSE) のブランド名で販売している。“地ウイスキーの東の雄”とか“埼玉スコッチ”などの愛称で呼ばれるようになった。自社のモルトやグレーンその他、本場のスコットランドからもモルトを輸入し、ブレンドしている。

ゴールデンホース「秩父8年」(写真6) は、創業の地・秩父から取り寄せた水を使用して羽生蒸留所で造られたモルト原酒を、秩父で長く熟成させたシングルモルトの逸品である。その他、ブレンドとしてゴールデンホース「武蔵」、「武州」、「グランド」、さらに“晩酌用地ウイスキー”としてオールドハーレイ (Old Halley) も発売している。

ウイスキーの消費量が急激に増加していた1970、1980年代、日本生活協同組合連合会と提携して「コープウイスキー (CO・OP Whisky)」の受託生産を行っていた (写真7)。

笹の川酒造株式会社

— チェリーウイスキー、THIS IS *W*

東北南部にある福島県郡山市笹川にある笹の川酒造株式会社は、文字通り地名を社名としているが、ルーツを辿ると明和2 (1765) 年山桜酒造として創業、開拓のシンボルとして造られた開成山公園に記念植樹された山桜に由来するのだという。ウイ



写真5 本坊酒造のマルス
モルテージ駒ヶ岳
シングルモルト10年

シェリー樽熟成と新樽熟成の10年ものをヴァッティングしたシングルモルト。



写真6 東亜酒造の
ゴールデンホース
秩父8年シングル・モルト



写真7 日本生活協同組合連合会が
販売したコープ・ウイスキー
ローヤル

かつて東亜酒造に委託生産されたコープブランドの一つである。現在は販売していない。

キー製造を始めたのは昭和21年で、当時の社名に因んでチェリー (Cherry) の商品名 (写真8) でスコッチタイプの良質モルトを売り出し、東北唯一の地ウイスキーとして人気を呼んだ。しかし、昭和60年代のウイスキーブームが去ってから、現在は原酒の製造を中止し、在庫の熟成樽からの製品を販売している。

もう1つのウイスキーとして、ケンタッキー産のモルトを混和、熟成させた「THIS is」も販売している。ラベル (写真9) にも、赤字で中央にUS BOTTLEと明記しているし、下段の枠の中には、小さな文字で「This whiskey・・・」と説明されているので、アメリカンの輸入品に属し、筆者自身で試飲して確認している。

中国醸造株式会社 — 戸河内ウイスキー、ウイスキー達磨、など



日本有数の観光地、宮島の対岸に位置する広島県廿日市市にある老舗総合酒類製造会社で、大正7 (1918) 年に中国酒類醸造合資会社として創業し、昭和13 (1938) 年に現在の中国醸造 (株) に社名変更した。この会社のもっとも特徴的なことは天然の貯蔵庫で、ウイスキーや焼酎などを熟成させていることである。安芸太田町にある国の特別名勝「三段

峡」(黒淵、猿飛、二段滝、三段滝、三ッ滝の五大壮観からなる)に近い戸河内 (とごうち)に残された幅4.9メートル、高さ3.5メートル、全長387メートルの鉄道用試掘トンネルがその貯蔵庫である。昭和45 (1970) 年頃、当時の国有鉄道 (現在のJRグループ) が可部から三段峡への鉄道路線を島根県浜田市方面に延長する計画で試掘されたトンネルであり、年間を通して気温14度、湿度80%の熟成に理想的な環境である。

永年、地ウイスキーとして愛飲された「グローリーウイスキーエキストラ (Glory Whiskey Extra) (写真10) は、日本では異例のWhiskeyの綴りを使っていたが、その理由については不明である。現在発売中の「戸河内ウイスキー18年」、「モルト・グリーンウイスキー達磨18年」も櫛樽に詰められ戸河内貯蔵庫で熟成されたまろやかな逸品に仕上げられた。さらに、レッドライオン社と提携して開発した、本格的ライト香味のスコッチウイスキー「アスコットハウス (Ascot House)」、「アスコットハウス15年」も輸入販売している。

モンデ酒造株式会社

— ウイスキーローヤルクリスタル



昭和27 (1952) 年に東邦酒造株式会社として創立、



写真8 笹の川酒造のチェリー・ブレンデッド・ウイスキー



写真9 笹の川酒造のブレンデッド・ウイスキー THIS is US BOTTLE

アメリカンを輸入し、日本で熟成とブレンドした製品。



写真10 中国醸造のグローリーウイスキーエキストラ

自家製モルトのブレンデッド地ウイスキーとされているが、現在は販売されていない。なぜかwhiskeyと綴られているが、会社からの説明はない。

山梨県の地場産業であるワインを主体に製造を開始した。昭和35年にモロゾフ酒造(株)に社名を変更し、ウイスキー部門にも進出し、昭和47(1972)年にモンデ酒造(株)に社名を変更して今日に至っている。高級ブレンドウイスキー「富士の精(EAU DE VIE DE FUJI)」と独特の瓶詰め「ロイヤルクリスタル(ROYAL CRYSTAL)」を製造・発売したが、現在は「ロイヤルクリスタル」(写真11)のみが発売されている。

この他にも、多くの企業がウイスキー輸入、販売に関係していると思われるが、筆者の検索能力を超えているので割愛することにする。さらに、今まで述べてきたいわゆる世界の5大ウイスキーに含まれない、新興ウイスキーもあるので、一部ではあるが参考までに表4に記載した。本格的ウイスキー以外に、ウイスキーまがいのものはいろいろな国で生

産・販売されていると想像されるし、現にいくつかの開発途上国または中進国から現物を頂いている。



写真11 モンデ酒造のロイヤル・クリスタルブレンドウイスキー

表4 世界5大ウイスキー以外の地域における新しいウイスキー (New World Whisky)

国(地域)	種類	ブランド名
オーストリア	シングルモルト	Waldviertler Feinster Roggen whisky
フランス、ブリタニ	シングルモルト	Whisky Breton Single malt whisky
米国、カリフォルニア	シングルモルト	St. George Single Malt
フランス	シングルモルト	Armorik
インド	シングルモルト	McDowell's Single Malt
米国、オレゴン	シングルモルト	McCarthy's Single Malt
ニュージーランド	シングルモルト	Lammerlaw Aged 10 Years, Cadenhead's Lammerlaw Aged 12 Years, Peated Malt Finishing Lammerlaw Aged 12 Years, Special Finishing Milford 10 Year Old Sigle Malt
南アフリカ	シングルモルト	Three Ships 10 Year Old
ウェールズ	シングルモルト	Welsh Whisky Penderyn

追記：モダンメディア誌第48巻2号、平成14年2月から5年間にわたり連載してきました「ウイスキー・ラベル物語」は今回で終わることになりました。

長い間ご愛読いただきました読者のみなさまおよびご支援を頂いたモダンメディア編集室に厚くお礼申し上げます。